

科目名	コンピュータシステム I A							
科目名(英)								
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	北島 仁宇、松嶋 貴志			
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	システムエンジニアとして従事 コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジ系の基礎となる情報の基礎理論やハードウェア・ソフトウェア等に関する知識を学ぶ。 初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標		
	○					ハードウェアソフトウェア分野の用語について説明できる		
	○					ストレージ/マネジメント分野の用語について説明できる		
	○	○				表や文章に書かれている情報を元に計算式を導き出すことができる		
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキスト I【ベーステクノロジー編】(TAG) 基本情報技術者午前問題集(インフォテックサーブ) IPA午前免除試験過去問題集(麻生塾)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1-2	基数(2進数・8進数・16進数)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	3	プロジェクト統合マネジメント、プロジェクトスコープマネジメント、プロジェクトタイムマネジメント						
	4-5	基数、負数、小数表現				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	6	プロジェクトコストマネジメント、プロジェクトリスクマネジメント						
	7-8	基数、負数、小数、その他データ表現				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9	確認テスト、サービスマネジメント、サービス運用とサービス移行				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	10-11	集合						
	12	サービス戦略とサービス設計、サービスマネジメント構築						
	13-14	論理回路						
	15	経営戦略の基礎知識、経営戦略手法、マーケティング						
	16-17	確率、統計						
	18	エンジニアリングシステム、eビジネス						
	19-20	プロセッサ						
	21	確認テスト、経営・組織論、IEとOR				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	22-23	記憶装置						
	24	品質管理の技法、その他の分析・図解技法						
	25-26	コンピュータシステム				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	27	財務会計、原価償却とリース、損益分岐点						
	28-29	システムの性能評価						
	30	知的財産権、労働関連・取引関連法規						
	31-32	タスク管理						
	33	標準化組織と規格、データの標準化						
	34-35	記憶管理						
	36	確認テスト、情報システム戦略、ソリューションビジネス、要件定義、調達計画				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	37-45	総復習(問題集)						
	評価方法	(1)授業の中で確認テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)受講状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	◎				50%
		確認テスト・課題レポート	◎	◎		○		40%
		受講状況				◎		10%
履修上の注意								

科目名	コンピュータシステムⅡA							
科目名(英)								
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	小淵 洋子・染矢 裕美子 後藤 基介・高倉 美哉			
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務 コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務 コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務 コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジー系の基礎となるデータベースおよび開発分野に関する知識を学ぶ。 基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して習熟を図る。							
授業形式	講義： <input type="radio"/>	演習： <input type="checkbox"/>	実習： <input type="checkbox"/>	実技： <input type="checkbox"/>	※ 主たる方法： <input type="radio"/> その他： <input type="triangle"/>			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	データベースおよびシステム開発分野の用語について説明できる		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SQL文を理解し、記述されたSQL文の正しい実行結果を予測・選択できる		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	データベース設計の手順を応用し、システム要件に則った設計を行うことができる		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ネットワークやセキュリティに関する用語、LANに関するネットワークデバイスについて説明できる		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	公開鍵基盤で使われている技術、不正侵入技術とその防御策について説明できる		
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】(TAC) 基本情報技術者午前問題集(インフォテックサーブ) IPA午前免除試験過去問題集(麻生塾)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1-2	データベースの導入、データベースの演算						
	3	ネットワークの基礎						
	4-5	正規化						
	6	伝送制御、ネットワークアーキテクチャ						
	7-8	演習(データベース設計)、SQL_SELECTの基本				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9	LAN、LANのアクセス制御						
	10-11	SQL_結合、SQL_整列						
	12	LAN間接続装置						
	13-14	SQL_グループ化、SQL_単一行副問合せ						
	15	WAN、インターネットとTCP/IP				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	16-17	SQL_複数行副問合せ、SQL_データ定義						
	18	IPアドレスとルーティング、IPアドレスの管理						
	19-20	SQL_データ操作、演習(SQL)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	21	TCPとUDP、アプリケーションプロトコル						
	22-23	データベース管理システム、障害回復						
	24	ネットワーク管理				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	25-26	演習(データベース運用)、システム開発モデル				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	27	情報セキュリティマネジメント、リスクアセスメントとリスク対策						
	28-29	開発アプローチ図解技法						
	30	暗号化技術						
	31-32	演習(システム開発図解技法)、ヒューマンインタフェース設計				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	33	デジタル署名とPKI、利用者認証						
	34-35	ソフトウェア方式設計、テスト技法						
	36	インターネットのセキュリティ技術、コンピュータウイルス対策				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	37-38	ソフトウェア開発管理技術、演習(テスト技法、管理技術)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	39	ファイアウォール、不正行為と対策方法						
	40-45	演習(検定問題)						
	評価方法	(1)授業の中で確認テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	◎				50%
		確認テスト・課題レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		10%	
履修上の注意								

科目名	コンピュータシステムⅢA						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	川野 啓祐・手嶋 隆之 相原 希久子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、アルゴリズム分野に関する知識を学ぶ。 初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して習熟を図る。プログラミングにつながるトレース力も身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				手順書からアルゴリズムの基礎となるフローチャートを書くことができる	
	○	○				基本情報処理技術者試験午後の言語問題および擬似言語問題でトレースができる	
テキスト・教材 参考図書	アルゴリズムとデータ構造(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	アルゴリズムと流れ図					
	4-6	繰り返し処理					
	7-9	集計1					
	10-12	集計2					
	13-15	集計2				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	16-18	配列					
	19-21	配列				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	22-24	擬似言語の基本					
	25-27	擬似言語のデータ構造				授業内容、プリントの復習をおこなうこと	
	28-30	探索処理(線形探索、ブロック探索)					
	31-33	探索処理(二分探索、ハッシュ探索)				授業内容、プリントの復習をおこなうこと	
	34-36	整列法(選択)					
	37-39	整列法(交換、挿入)					
40-42	文字列操作				授業内容、プリントの復習をおこなうこと		
43-45	問題演習						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを2回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	確認テスト・課題レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	コンピュータオペレーション演習A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高倉 美哉		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科・情報システム専攻科・情報システム科 1年						
授業概要	Linuxサーバやネットワークデバイスの操作に必要な、コマンドラインの使い方をWindowsのコマンドプロンプトでの演習を通じて学習し、ディレクトリ作成やファイル操作、システム管理ができるようになる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					GUIでなくCUIでの操作のメリットを説明できる	
	○	○	○			コマンドを使用して、Windowsのディレクトリ作成、ファイル操作ができる	
	○	○	○			コマンドを使用して、Windowsのシステム操作、確認ができる	
テキスト・教材 参考図書	・オリジナル資料(パワーポイント、プリント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	基本操作(UIとは・基本的な操作方法・コマンド入力規則)					
	2	基本操作(環境変数・絶対パスと相対パスの指定方法)					
	3	基本操作(ファイル操作(コピー・削除・移動)・ディレクトリの移動)					
	4	基本操作(ファイル操作(テキストファイル作成・表示・検索))				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	5	復習(1) ファイル操作					
	6	基本操作(ファイル操作(ワイルドカード・リダイレクトの練習))					
	7	操作復習(リダイレクト・パイプ)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	8	復習(2) ファイル操作					
	9	ネットワーク管理(NIC情報表示)					
	10	ネットワーク管理(トラブルシューティングコマンド)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	復習(3) ネットワーク管理					
	12	システム操作(プロセス管理方法)					
	13	システム操作(プロセス管理方法)					
	14	システム操作(プロセス管理方法)					
15	総まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト・課題・レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	Webプログラミング演習 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	手嶋 隆之・染矢 裕美子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科、情報システム専攻科、情報工学科 1年						
授業概要	実際にプログラムを作成しながら、JavaScriptの基礎を学習する。段階的に複数の課題に取り組むことで、Webプログラムが動作する原理とアルゴリズムを理解する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			JavaScriptの基本的なコードを書くことができる	
		○	○			プログラミングの基本構造を理解し説明できる	
		○	○			Webプログラミングが動作する原理を理解し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	本当によくわかるJavaScriptの教科書(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	Chapter1 JavaScriptとは					
	3-4	Chapter2 JavaScriptの基本 ルール、エラー処理、変数とデータ構造					
	5-6	Chapter2 JavaScriptの基本 計算処理、文字列、配列					
	7-8	Chapter2 JavaScriptの基本 Lessonダイアログボックス、ファイル管理、読みやすいコードの書き方					
	9-10	Chapter3 分岐条件 基本的な構造				コンピュータシステムⅢで学ぶ内容をJavaScriptで考える。	
	11-12	Chapter3 分岐条件 比較演算子、複数条件の組み合わせ					
	13-14	Chapter3 分岐条件 論理演算子、switch文					
	15-16	Chapter3 分岐条件 課題作成				コンピュータシステムⅢで学ぶ内容をJavaScriptで考える。	
	17-18	Chapter4 繰り返し 基本的な構造、for文					
	19-20	Chapter4 繰り返し 課題作成				コンピュータシステムⅢで学ぶ内容をJavaScriptで考える。	
	21-22	Chapter4 繰り返し while文					
	23-24	Chapter4 繰り返し 課題作成				コンピュータシステムⅢで学ぶ内容をJavaScriptで考える。	
	25-26	Chapter5 関数 基本的な構造					
27-28	Chapter5 関数 引数・戻り値の設定、有効範囲						
29-30	問題演習						
評価方法	(1)課題作成を数回実施する。(2)授業の中で、確認テストを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	◎	◎				30%
	課題作成		◎	○	○		60%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	一般教養 I A							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	畠添 正和	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	就職筆記試験の要素である英語及び社会に関して基本知識を習得する。漢字や語句の読み書き、方程式、図形等の基本項目から長文読解までの広範囲な問題演習を行う。							
授業形式	講義:	○		演習:		実習:		
						実技:		
						※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					就職試験頻出の漢字、同音異義語、四字熟語の読み書きができる		
	○	○				長文や図表を用いた数学問題で正しい式を考えることができる		
テキスト・教材 参考図書	就職筆記試験対策問題集(ウィネット)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	国語:漢字の読み(1・2) 数学:式と計算(1)						
	2	国語:漢字の読み(3)、漢字の書き取り(1) 数学:式と計算(2)						
	3	国語:漢字の書き取り(2)、同音異義語(1) 数学:速さの基礎						
	4	国語:同音異義語(2・3) 数学:旅人算						
	5	国語:同訓音字、語句の意味(1) 数学:通算						
	6	国語:語句の意味(2)、同意語・類似語 数学:流水算					これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと	
	7	国語:反対語、中間テスト対策(今まで学習したことの見直し) 数学:中間テスト対策(今まで学習したことの見直し)						
	8	小テスト(国語及び数学)					授業内容に係るテストを実施するので、復習しておくこと	
	9	小テストのフォローアップ 数学:割合の基礎						
	10	国語:四字熟語(1・2) 数学:濃度						
	11	国語:ことわざ(1・2) 数学:損益算						
	12	国語:慣用句・故事成語 数学:順列・確率						
	13	国語:敬語、適語補充 数学:集合						
	14	国語:文章整序、文章読解 数学:推理						
15	総復習							
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席状況を加味する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	◎				40%	
	小テスト	◎	◎				40%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意								

科目名	グローバルシティズンベーシック(GCB) I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川野 啓祐・小淵 洋子・手嶋 隆之・高橋 政博・高倉 美哉・北島 仁宇		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	「感謝と思いやり」「自分のあり方」について講義、DVD、書籍を活用しながら、自ら考え、気づいたり、クラス内で話し合いや発表を行う。感謝と責任感、他者への思いやりを日常生活でカタチとして表現・実践できるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間)であることを説明できる	
	○	○				感謝心が人間力の根底であることを説明できる	
	○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I (麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう					
	2	「協働」の態度を持った学生生活					
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～				グループワークのテーマについて自分の考えをまとめてくること	
	4	マナーの本質 I					
	5	マナーの本質 II					
	6	グローバルシティズンとしての日常					
	7	グローバルシティズンとしての目標				自分の目標をまとめてくること	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	○		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意							

科目名	ゼミナール I A								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川野 啓祐、小淵 洋子、手嶋 隆之 高橋 政博、高倉 美哉、北島 仁宇				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	情報工学科、情報システム専攻科、情報システム科 1年								
授業概要	学校活を送る上での基盤となる力や社会で働く力を育む。								
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
				<input type="radio"/>		人間関係を自主的、実践的により良いものへと形成できる			
	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		社会的・職業的自立の意義を理解し説明できる			
	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		社会生活を営む上で必要なマナーやルールを理解し説明できる			
テキスト・教材 参考図書	なし								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	クラス内オリエンテーション① …自己紹介、マナーについて				マナーの大切さについてインターネットで調べる			
	2	学習方法 …読解、予習、復習、ノート、プリント整理							
	3	クラス内オリエンテーション② …グループ演習							
	4	学則の理解 …成績評価、規定学生生活規定、履修規定							
	5	教育目標、教育課程の理解							
	6	他人とつながる …言葉が与える「快」、「不快」							
	7	あなたは大人ですか？子供ですか？ …責任ある行動				IT業界の資格試験についてインターネットで調べる			
	8	資格試験の種類と目標設定							
	9	先輩の体験談 …検定試験、定期試験				最近話題になっている世界情勢についてインターネットで調べる			
	10	時事問題 …世界情勢について考える							
	11	趣味と仕事 …将来の仕事について考える				IT業界についてインターネットで調べる			
	12	IT業界の理解① …グループでの調査							
	13	IT業界の理解② …発表、個人レポート作成							
	14	前期授業の振り返り							
15	学則の理解 …定期試験規定								
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題・レポート				<input type="radio"/>		50%		
	受講状況				<input type="radio"/>		50%		
履修上の注意									

科目名	ビジネスコミュニケーションⅠ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川野 啓祐、小淵 洋子、手嶋 隆之 高橋 政博、高倉 美哉、北島 仁宇		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	自己のふるまいを見直し、社会人として、より良いコミュニケーション力を育む。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		きちんと声を出して挨拶ができる	
	○			○		効果的な自己PRができる	
	○			○		相手に伝わる表現や話し方ができる	
テキスト・教材 参考図書	コミュニケーション技法(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	序章「コミュニケーションしてみよう」【印象交換】				コミュニケーションについて、自分なりインターネット や本で調べる	
	2	「コミュニケーションの基本」【ア行で話そう】					
	3	「コミュニケーションの基本」【絵で話そう】					
	4	「コミュニケーションの基本」【あいさつとマナー】					
	5	「コミュニケーションの基本」【あいさつの達人】				コミュニケーションの基本について復習を行なう	
	6	「きれいな発声・発音を身につけよう」【話し方チェック】					
	7	「正しい日本語を身につけよう」【日本語を考える】					
	8	「正しい日本語を身につけよう」【正しい言葉遣い】					
	9	「正しい日本語を身につけよう」【敬語をマスター】				プレゼンテーション内容を事前に考える	
	10	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション①】					
	11	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション②】					
	12	「効果的な話し方を身につけよう」【5W2Hで話す】					
	13	「効果的な話し方を身につけよう」【AIDMAの法則】					
	14	「効果的な表現力を身につけよう」【態度と目線】					
15	「効果的な表現力を身につけよう」【ゼスチャー】						
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○			○		50%
	受講状況				○		50%
履修上の注意							

科目名	ビジネスソフトウェア演習 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河野 明子/平川 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	Excelを使用して、表を作成(関数等の利用)し、それを基にグラフを作成が使用できる 基本情報技術者試験の表計算問題に出題される関数の使い方を学習する						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			Windowsの基本操作、文字入力ができる	
		○	○			Excelを使って、基本操作(表計算、計算式の設定、グラフ作成)ができる	
		○	○			基本情報技術者試験の表計算問題で使用される関数が理解できる	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016(FOM出版) 表計算問題がちゃんと解ける本						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Windowsについて、ウィンドウ操作、入力・変換					
	2	入力・変換・IME使用方法、ファイルの管理					
	3	第5章_Excelの基礎知識/第6章_データの入力/第7章_表の作成(書式)					
	4	第7章_表作成(関数)/第8章_グラフ作成					
	5	第9章_データ分析					
	6	Excel 練習問題(総復習)				テキストの第5章～第9章を復習しておくこと。	
	7	Excel 実技試験				練習問題を復習しておくこと。	
	8	表計算問題 CHAPTER1 表計算の基礎					
	9	表計算問題 CHAPTER2 関数①					
	10	表計算問題 CHAPTER2 関数②					
	11	表計算問題 CHAPTER2 関数③					
	12	表計算問題 CHAPTER2 関数④					
	13	表計算問題 CHAPTER2 関数⑤					
	14	表計算問題 復習①				表計算問題 関数の復習をしておくこと。	
15	表計算問題Excel 実技試験						
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)宿題を数回実施する。(3)定期試験(実技)を実施する。 (4)授業態度の注意が多い学生に対し減点評価を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技試験		○	◎			50%
	小テスト		○	◎			20%
	宿題・レポート		○	◎	○		15%
	受講状況				◎		15%
履修上の注意	宿題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または追加宿題を設ける場合がある。						